■天武天皇(大海人皇子)　　**40代天皇。天智天皇の弟。壬申の乱で実権握り，律令国家建設推進するも，途上で没した。**
てんむてんのう
百済王子人質 631＝　　生，舒明天皇の子，母は宝皇女(のちの皇極天皇)，同母兄に中大兄皇子(天智天皇)がいる

大海氏に養育されたらしい。

高向ら帰国・ 640＝ **9歳：**

蘇我入鹿の乱 643＝12歳：

乙巳の変・・ 645＝14歳：

・・・・・・ 649＝**18歳：**

成長するにしたがって中大兄の政治を助けたであろう。

・・・・・・ 657＝26歳：**_中大兄の娘□野讃良皇女を妃としたことから，この頃から政治にかかわったことを示すと思われる。**
有間皇子謀殺 658＝**27歳：**当時中大兄のもとで律令的政治制度を唐・朝鮮より摂取し，国政の改革が進行していたが，海外では唐の強大な勢力が朝鮮に及び，東アジアの国際情勢は緊迫の度を強めていた。

朝鮮出兵・・ 661＝30歳：唐と新羅に攻められた百済救援の軍が派遣されたのもその一つの現れであるが，その軍は，

白村江の戦・ 663＝32歳：白村江で大敗した。
国防ﾗｲﾝ整備 664＝33歳：**_天智による冠位二十六階の制や民部・家部の制など重要政策を発表，天皇名代として藤原鎌足と折衝するなど，急激に重要な役割を演ずるようになる。**

大津京遷都・ 667＝**36歳：_天智は都を近江の大津に移し，**
興福寺・・・ 668＝37歳：**_天智は正式に即位する。このとき天武は皇太子の地位につき，皇太弟と呼ばれた。**
_天智の後継者としての実力は自他ともに認めるところであったに違いないが，間もなく，天智が長子大友皇子を後継者と考えるようになったため，天智・大友と大海人との間に対立が生じた。大友の妃は大海人がはやく姿った額田女王との間にもうけた十市皇女であった。対立は激化し，
中臣鎌足没・ 669＝39歳：藤原鎌足が死去すると破局に向かった。
天智天皇没・ 671＝40歳：**_天智が大友皇子を太政大臣に任じたため，天武はその天智の意中を察して宮廷を退き出家するとして，吉野山中に隠れた。天智は同年没し，近江朝廷は大友皇子(弘文天皇)が君臨したが，**
壬申の乱・・ 672＝41歳：***朝廷方の軍事的な動きを察知して，直領地のある美濃を基盤にして挙兵して反乱をおこした。反乱は成功し，約１ヵ月のちに近江宮は落ち，大友皇子は自殺した。天武は都を大和にかえし，**
天武天皇即位 673＝42歳：***飛鳥浄御原宮で即位し，□野讃良皇女を皇后とした。政治の方針は，太政大臣や左右大臣を置かず，有力豪族の勢力を排除して天皇に権力を集中し，律令体制を推進することにあった。天武は皇后や皇子・皇族の補佐によって政治を執ったので，天武の政治を皇親政治ともいう。その治世のあいだに，**
・・・・・・ 675＝44歳：**_天智朝に公認された豪族私有の部曲を廃止し，王臣らの山野とともに収公して公地公民制を推進し，**
_地方支配では諸国境域の画定を進め，国造を地方行政官である評督とし，国評制を確立。
新羅朝鮮統一 676＝**45歳：**
・・・・・・ 681＝50歳：**_飛鳥浄御原律令の編纂，国史の編纂や伊勢神宮の整備など，施策は多方面にわたる。**
外交面では，治世の間に新羅が8回来朝し，遣新羅使が4回送られて文化的恵与を得たことが特徴である。
八色の姓・・ 684＝53歳：**_八色の姓の制定，地方豪族の武器の収公と兵制の整備，**
伊勢遷宮・・ 685＝**54歳：*官吏の登用・昇進の制や皇子女といえども天皇の臣として位置づける位階六十階の制定など，つぎつぎに新制を実施し，律令政治を軌道にのせるうち，**
天武天皇没・ 686＝55歳：***病が重くなり，政治を皇后と嫡子草壁皇太子に任せ，没した。**

「日本史を変えた人物200人」，「日本史重要人物101」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，